

1. 授業のねらい・概要

「日本文化」あるいは「日本の伝統文化」という言葉を聴いて、諸君はいかなるイメージを頭に描くだろうか。能や歌舞伎、文楽といった伝統芸能の数々を思い浮かべる者もいるであろうし、また寺社や城といった建造物、そこに収められている様々な工芸作品、あるいは寿司や蕎麦といった和食のメニューを考える者もいるかもしれない。もちろん、この問いには何が正しく何が間違っているという解答はない。我々の祖先が営んだ生の中で形作ってきた、有形・無形のさまざまな遺産を総称して「日本文化」と捉えることができるのではないだろうか。

本講義は主に前近代を対象として、基本的には1時間で一つの事例を取り上げることで、時には外国からの強い影響を受け、また時には固有の展開を見せながら発展してきた「日本文化」、及びそれを構成した様々な要素（文物、芸能、その他）を紹介していきたいと考えている。

もとより、半期という期間の中で「日本文化」を網羅的に述べることは不可能であり、いささか「つまみ食い」的な形とならざるを得ないことをあらかじめ断っておきたい。

2. 授業の進め方

講義形式で授業を進めるが、受講生の理解を助けるためパワーポイント等の AV 機器を多用したいと思う。

3. 授業計画

1. 「日本文化」を概観するー導入	8. 火縄銃ー技術の移入
2. 縄文と弥生	9. 茶の湯ー極小の宇宙
3. 古墳	10. 城郭ー多賀城と姫路城
4. 神社と寺院ー固有と外来	11. 伝統芸能①ー能楽
5. 東大寺廬遮那大仏 ー8世紀の国家プロジェクト	12. 伝統芸能②ー歌舞伎
6. 平等院鳳凰堂ー浄土への思い	13. 浮世絵ージャポニスムへの影響
7. 金閣と銀閣ー禅の文化	14. 天ぷら・蕎麦・寿司ー「和食」の成立
	15. 近現代への展望ーまとめにかえて

4. 到達目標

「日本文化」について理解を深め、講義で取り上げた事項についてそれぞれ簡単な説明ができる程度の知識を有すること。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

前の回の講義時間の中で紹介する参考文献等を、次回の講義時間までに目を通しておく。

6. 成績評価の方法・基準

定期試験の点数に、平常点を加味して判定する。しかし、このことは授業に出てさえいれば単位を修得できるということではない。講義への積極的な参加を希望する。

7. テキスト・参考文献

テキストは特に指定しない。必要に応じて、講義プリントを配付することがあるが、その試験持ち込みは不可である。参考図書は講義の中で随時紹介していくので、新書程度は購入して読むように心がけてほしい。

8. 受講上の留意事項

授業に出ることは必要条件であって、けっして十分条件ではない。また、授業では「ノートに写す」ことも必要だが「ノートを作る」ことも重要である。板書、投影したものを単に写していくだけでは、本当にその講義の内容を理解したことにはならないということに気づいてほしい。